

伸び縮む形状記憶合金

貴金属メッキ処理のシンテック(福島県いわき市、赤津和三社長)は形状記憶合金に伸縮性を持たせる独自技術を開発した。細い形状記憶合金のワイヤを複数束ね、らせん状に巻いて形状を記憶させる。写真。美

シンテックが開発

しい曲線を半永久的に保つのが特徴で、宝飾品大手が今夏発売する真珠のネックレスに採用した。医療や産



宝飾品や医療機器に

業用途も開拓する。開発した形状記憶合金はニッケルとチタンを五〇%ずつ配合。見た目は細い線のようにだが、実際はらせん状に束ね、伸びしろがある。ワイヤの太さや束ねる本数を調節すれば、伸縮度を変更できる。福島県から約三百万円の補助金を受け、四年かけて開発した。製造技術は特許を申請中。真珠のネックレスなどのワイヤは通常は合成繊維製だが、使ううちに伸びて形状が崩れてしまう欠点があった。今後は他の宝飾品メーカーにも売り込むほか、手術後に身に着ける医療機器や産業用ロボットのアームの部品など他の分野でも普及を目指す。